

大会時・コロナ禍での取組

- ・東京2020大会の開催を見据え、取組の検討を開始
- ・2019年：2020TDM推進プロジェクトの説明会に参加
(アクションプランを作成。自社の組織目標設定シートに反映)
- ・2019年：交通対策テストと併せて運行シミュレーション実施
- ・2021年9月：大会閉会に伴い、TDM推進の目標はクローズ

人の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- テレワーク・・・実施率約5～6割（商品を扱う部門は数%程度）
- オフピーク通勤・・・物量に合わせて調整
- 会議等のオンライン化・・・オンライン会議を拠点間で実施
- 計画的な休暇取得の促進・・・従前の制度を促進
大会期間中は一斉休業を実施
- 手続きの電子化・・・社内は電子化済。一部の紙媒体もPDF化を促進中
- アクションプランの作成
- その他取組
物流センターのプリンター関連の消耗品は大会前に普段より多くストック

物の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- 発注時期の調整（前倒し）・・・検討するも未実施
- 配送時間の変更・・・朝積みから夕積みに変更し効率化
- リードタイムの緩和・・・リードタイムを長くして仕入れ
- 計画的な発注・・・年間計画で数値化し在庫管理
- 既存の物流システムの変更・・・対策ルートや時間帯を作成し活用
(混雑状況をみながら段階的に通常の運行計画に戻っていった)
- 取引先との配送に関する調整
配送回数の変更等に関する協力文書を発出

取組ポイント

- 商品を扱う部門も物流量を見ながら計画的に取組を実施
- 自社の「健康経営戦略」に基づき計画的な休暇取得を促進
- 自社の目標計画シートにTDMに関する項目を追加。ISO規格認証としてPDCAサイクルを実施

取組ポイント

- 事前に顧客にアナウンス（口頭やWEB等を活用）
- 従前からの長期的な在庫管理により、計画的な発注を実現し、リードタイムを緩和
- 事前の配送シミュレーションを実施

今後の取組

人の流れ

新たな習慣として継続実施予定

 テレワーク オフピーク通勤 会議等のオンライン化 計画的な休暇取得の促進

自社の「健康経営戦略」に基づき前年度以上の休暇取得を促進

 手続きの電子化

物の流れ

 配送ルートの適正化

走行距離の無駄を無くしてCO2排出抑制にもつなげる

 EV化の促進

- ・現状は配送ルートの適正化や無駄な走行距離の削減を実施
- ・運送会社との連携・協力によるEVトラックの導入

 まとめ配送

CO2排出抑制の観点からも、配送回数減につなげる

【東京2020大会を振り返って】

- ・東京2020大会時の運行計画については、大会輸送影響度マップを基に付近の状況を確認し、横持ち車両を3回/日から減らす方が良いと判断して想定していた。経路探索システムは非常に便利で、検索結果の迂回路等も活用した。実際のところは殆ど影響がなく、問題はなかった。